

ふくおかの経済

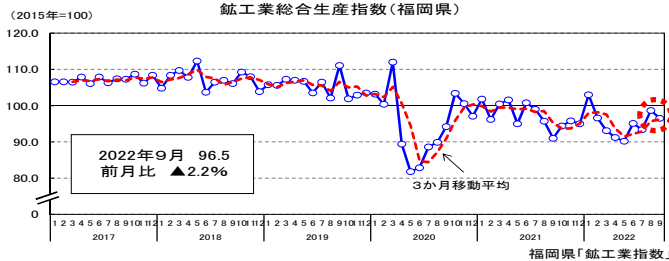
令和4年11月号



生産

持ち直しの動きがみられる。

9月の生産指数は、汎用・生産用機械工業などの低下により2か月ぶりに前月を下回りましたが、3か月移動平均では前月を上回りました。

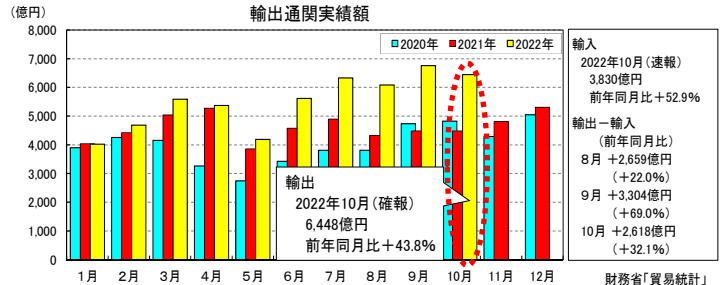


鉱工業生産指数は、2015年の生産水準を100として、その変化を表しています。

貿易

輸出額、輸入額ともに、前年同月を上回っている。

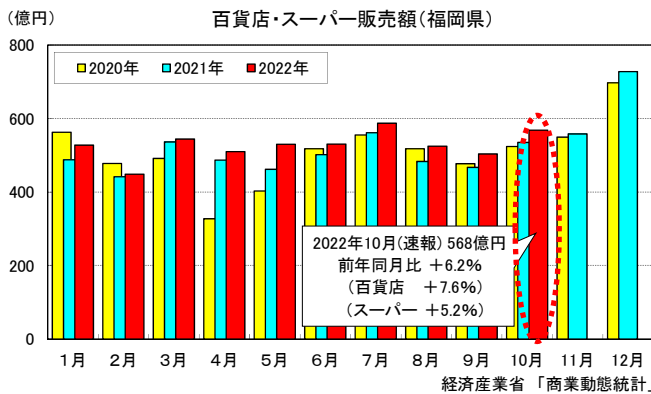
10月の輸出額は、前年同月比+43.8%、輸入額は同+52.9%といずれも前年同月を上回りました。



消費

緩やかに持ち直している。

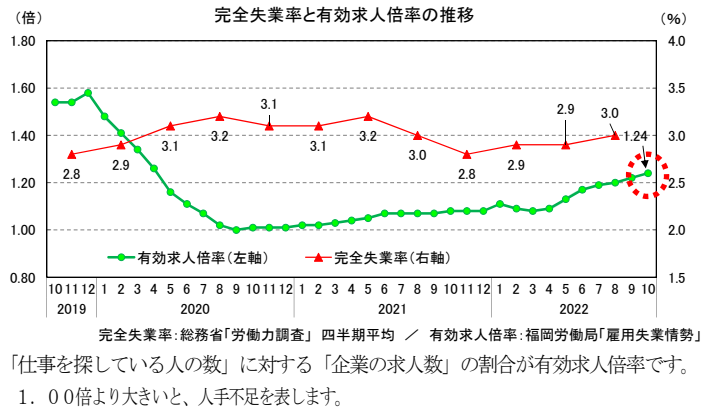
10月の百貨店・スーパー販売額は、13か月連続で前年同月を上回りました。



雇用

雇用情勢は、緩やかに改善しているものの、一部に厳しさがみられる。

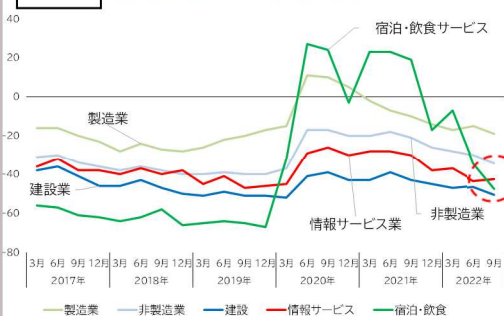
10月の有効求人倍率は1.24倍で、前月から0.02ポイント上昇しました。



今月のトピック IT人材不足の解消に向けて ~高専との連携~

- ウィズコロナの下で経済活動の正常化が進む中、全体的な人手不足感が高まっています。日銀短観における雇用人員判断DIによると、中でも情報サービス業は▲42%ポイントと不足感が大きく、企業において十分なIT人材が獲得できていない状況が見られます(図表1)。
- こうした中、現場の第一線で活躍する技術者を養成することを目的としている高等専門学校(以下「高専」と)とその人材に、近年注目が集まっています。2023年度には、九州・沖縄地区の高専と九州大学が連携し、九州全体で地方創生に貢献できる高度技術系人材育成を目的として「高専連携教育プログラム」を開始する予定となっています(図表2)。
- また、高専と企業がタッグを組む動きが出てきており、大牟田市の有明高専では、教育のみならず企業や地域の課題を解決するという目的で、協賛企業の名前を付けた研究ラボを学校内に開設しています(図表3)。
- AIやIoTなどのデジタル技術が加速的に進展し、その活用が進む中、不足しているIT人材を育成し充足させるのみならず、地域の持続的な発展のためにも、今後、九州に集積している高専の高い技術力・人材の更なる活用に向けた、産学官における連携の強化が求められそうです。

図表1 雇用人員判断DIの推移(全国)



図表2 九州大学の取組(高専連携教育プログラム)

九州・沖縄の9高専において、5年間の高専本科修了後、2年間の専攻科に進学するとともに、九州大学3年次にも編入(2年間双方に在籍)

高度技術系人材の育成を狙う

出所:九州大学HPより引用

図表3 有明高専(大牟田市)と企業における取組

企業 研究費を支払 有明高専 企業名を冠したラボを設置し、共同研究

事例(一部)

企業	概要
株式会社ASKプロジェクト	ゲームやIoTを題材にAI活用人材育成
株式会社ジータット	集積回路設計を楽しみながらEDA開発
株式会社佐賀銀行	連携促進のためのデータ解析技術応用
株式会社トッパン・テクニカル・デザインセンター	半導体・集積回路設計

出所:有明工業高等専門学校HPより作成